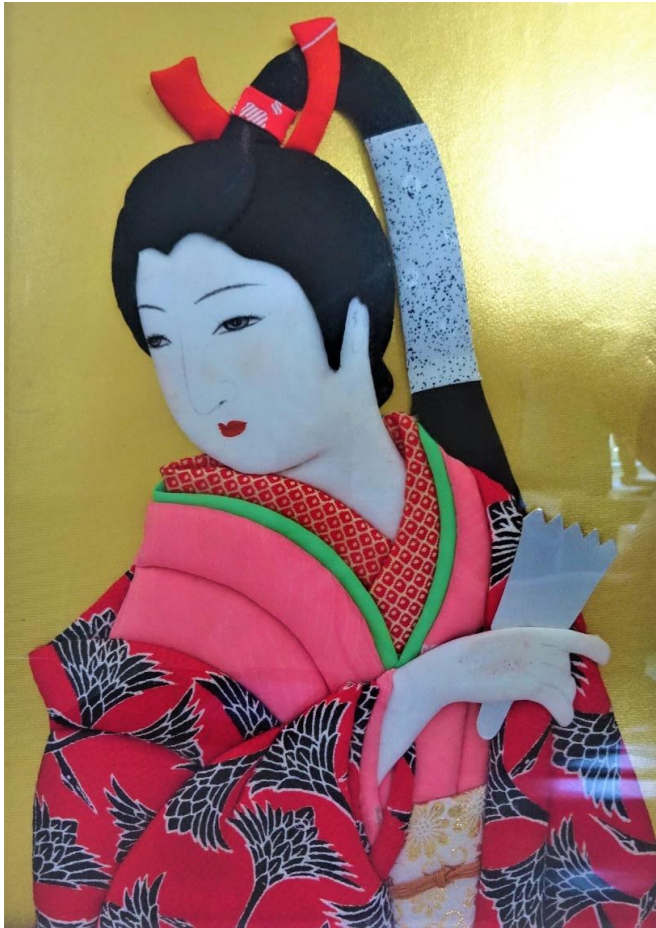


天草押し絵

あまくさおしえ



赤松フサ先生 作

押し絵（おしえ）は花鳥、人物などの形を厚紙で作り、これを布でくるみ、中に綿をつめて高低を付け板などに張り付けて仕上げる布細工の一種です。

下絵を厚紙にのせ、上から輪郭をなぞり、溝を作ります。この溝にそって型紙を切り抜き、ちょうどパズルのように全体をばらばらに分解します。このチップに、裁断した布を糊で貼り付けて、中に綿を詰め込んでいきます。そうしてできた何十個もの部品を組み合わせて貼りつけて絵を完成し、固定します。

天草では、江戸時代から作られていました。江戸時代以降は、島内各地で細々と作られてきたそうですが、上記写真の作品を制作された赤松フサ先生が作り方を多くの方々に指導し、その門下生の方々が『天草押し絵の会』を結成、伝統工芸として継承され、現在に至っています。

彩りが美しく、家の新築やお店の開店の際に、壁掛け等の贈答品として広く喜ばれています。